

臨時F-35A飛行隊が発足



2017年12月1に行われた「臨時完結式」の様子（写真：航空自衛隊）

部隊旗にはモントーンで雷神の姿が描かれている。第302飛行隊のオジロワシに代わる、新たな部隊マークだろうか（写真：航空自衛隊）



（おぞらくは飛行隊長によ

空自衛隊で初めてのF-35A運用編成完結式典が行われた。式典の内容は（おそらくは飛行隊長によ）編成完結の申告と、城殿保北部空団司令による訓示、隊旗の授与といったところ。人員の方は、飛行

と整備補給群がそれぞれ20名程度ずつのことだ。

今後、年度内の2018年3月までに、名古屋FACOで組み立てられた通算6機目のF-35A（AX-6 79-8706）が三沢基地に到着する」とになる。その後、アメリカで練に使用している機体や、如中国ACOで組み立てられる機体の搬入を開始して、「機数が揃つた」といふ（嘉手納基地にて撮影 2017/12/8）

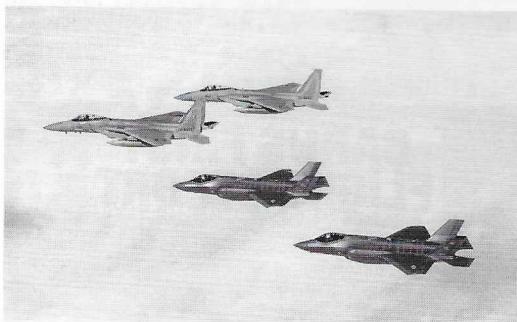
年12月8日の記者会見で、F-35Aに搭載する空対艦ミサイルとしてノルウェー・コングスベルク社製のJSM

JSMの調達を正式表明

なじ上に、搭載しもつとしても機体側の「ハピコータなどに手を入れたり、適合性などに関わる試験を実施したりする必要がある。国産ミサイル搭載の実現可能性は不透明なので、JSMの取得は必然だったといえよう。

第80航空団（茨城基地）のF-2が2機と、第9航空団（那覇基地）のF-2が2機、訓練内容は「対戦闘機戦闘訓練」となっているので、いわゆる異機種間戦闘訓練（DACT）を行ったものと推測される。米軍機の支援に早期警戒機などが加わっていたかどうかは不明なので、早期警戒機もえたネットワーク化を図ったかどうかは不明だが、F-35同士、F-35とF/A-18のデータリンクは構築できる。手強い訓練になつたのは確かではないか。

米空軍のF-35A 日米合同訓練でDACT



日米合同訓練で、編成飛行を行なう、航空自衛隊第9航空団第204飛行隊のF-15J（12-8925、72-8962）とアメリカ空軍第388戦闘航空団第34戦闘飛行隊のF-35A（14-5102、14-5104）（写真：US Air Force）

嘉手納基地に展開している、米空军第388戦闘航空団（388FW）所属のF-35Aが、第12海兵航空群（MAG-12）指揮下のF/A-18とともに、2017年12月4日に航空自衛隊との合同訓練を実施した。機数はそれぞれ2機ずつで、場所は日本海と沖縄周辺の空域となつていて、「これに日本側から参加したのは、

韓国で演習に参加
日本に展開中のF-35が
韓国で演習に参加

韓国は2017年12月4日、米韓両国は2017年12月4日、合同演習「ヴィジラント・エース」を実施した。参加兵力は万単位、航空機は230機が参加するといつ大規模な演習だが、そこに嘉手納基地に展開中のF-35Aが6機、岩国基地に前方展開中のF-35Bが12機、それぞれ参加した。このほか、アメリカ本土からはF-22Aが6機飛来した。（Stars and Stripes 2017/12/4）

嘉手納に展開したF-35Aがパネル落下事故

ユタ州のヒル空軍基地から嘉手納基地に展開している、米空軍第388戦闘航空団（388FW）所属のF-35A（15-5105/AF-106）が、胴体右側面のパネルを脱落させる事故を起こした。11月30日の午前10時半ごろ、嘉手納基地で離着陸機の調査を行っていた防衛省、沖縄防衛局の職員が、パネルの脱落を目視で確認。さらに、北谷町砂辺で撮影された写真でも、パネルの脱

JSMは現時点で唯一、F-35の機内兵器倉に収容できる空対艦ミサイルである。開発元のノルウェーに加えてオーストラリアも採用の方向で、効果的かつ安全な作戦行動が可能になる」としている。

内兵器倉に収容できる空対艦ミサイルはミサイルの射程距離の外から、我が国に侵攻する敵の水上部隊や上陸部隊に対処することで、より効果的かつ安全な作戦行動が可能になる」としている。

JSMは現時点で唯一、F-35の機内兵器倉に収容できる空対艦ミサイルである。開発元のノルウェーに加えてオーストラリアも採用の方向で、開発費を負担して作業を進めてきている。実のところ、国産の空対艦ミサイルは機内兵器倉に収容でき

たものと想定されるが、嘉手納基地に展開している、米空军第388戦闘航空団（388FW）所属のF-35Aが、第12海兵航空群（MAG-12）指揮下のF/A-18ともども、2017年12月4日に航空自衛隊との合同訓練を実施した。機数はそれぞれ2機ずつで、場所は日本海と沖縄周辺の空域となつていて、「これに日本側から参加したのは、

韓国で演習に参加
日本に展開中のF-35が
韓国で演習に参加

韓国は2017年12月4日、米韓両国は2017年12月4日、合同演習「ヴィジラント・エース」を実施した。参加兵力は万単位、航空機は230機が参加するといつ大規模な演習だが、そこに嘉手納基地に展開中のF-35Aが6機、岩国基地に前方展開中のF-35Bが12機、それぞれ参加した。このほか、アメリカ本土からはF-22Aが6機飛来した。（Stars and Stripes 2017/12/4）

嘉手納に展開したF-35Aがパネル落下事故

ユタ州のヒル空軍基地から嘉手納基地に展開している、米空軍第388戦闘航空団（388FW）所属のF-35A（15-5105/AF-106）が、胴体右側面のパネルを脱落させる事故を起こした。11月30日の午前10時半ごろ、嘉手納基地で離着陸機の調査を行っていた防衛省、沖縄防衛局の職員が、パネルの脱落を目視で確認。さらに、北谷町砂辺で撮影された写真でも、パネルの脱

問題のパネルは、地上で整備や準備を行なう際に使用するもので、コネクタやスイッチボードなどが収まっている部分を力バーチでいる。頻繁に開閉する」とから、このパネルは回転式の金具で固定しており、金具を回して外すだけで開けられる（頻繁に開けない部位のパネルはビス留め）。このことからすると、金具の締め付けがきちんと行われていなかつた可能性が考えられる。

これを受けた沖縄防衛局は、アメリカ軍に事実関係を確認しているが、30日の時点では回答はないとのこと。（NHK）（2017/11/30）



胴体右側面のパネルが外れた状態で、嘉手納基地に着陸する第388戦闘航空団のF-35A（14-5105）（写真：Arnold ten Pas）